

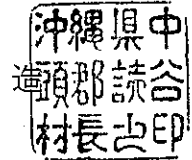


読土第 484 号
平成20年10月16日

国土交通省道路局長 殿

読谷村長

安 田 慶



今後の道路行政についての意見・提案について（報告）

平成20年9月19日付け国道企第37号にて依頼のありましたみだしの件
について、別紙のとおり報告いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

沖縄県読谷村

1. 道路整備に係る財源の確保

沖縄県は島嶼で、鉄道交通を持たない唯一の県であり、移動手段は専ら自動車交通に依存した交通体系となっている、市町村においては戦後の駐留軍用地が点在し、土地利用及び道路整備を図る上で大きな障害となっている。又SACO合意や日米合同委員会により本村でもここ数年間で、読谷補助飛行場、嘉手納弾薬庫（国道東地区）、楚辺通信所、瀬名波通信施設等の返還が行われ、その面積は約344haにも及ぶ、その為跡地利用の推進等に係る道路整備については道路特定財源の一般財源化が議論される中で、遅れたインフラの整備については地域の特性に配慮した整備方針の確立及び財源確保が望まれる。

2. ハシゴ構想における軍用地の取扱いについて

国や沖縄県においても地方道整備の施策として東西軸等の連絡を目的として「ハシゴ道路」の整備構想がなされているが、沖縄県中南部においては、中央部に米軍施設や軍用地が点在し、その足かせとなっている。構想のみで具体的な整備事例に対する方針の確立がなされていない。

今後の道路行政についての意見・提案

②ー１ 地域の現状と抱える課題

沖縄県読谷村

○ 現状

本村は沖縄本島中部の西方に位置し、那覇から28km、西は東シナ海に面し、南は嘉手納町、東は沖縄市、北は恩納村に隣接し面積は35.17km²で海に突き出た半島状の地形をなしている。

本村の現況道路網は沖縄本島の大動脈である国道58号が南北に縦断し村内を県道6号線及び県道12号線が環状道路として交通の骨格軸を形成している。

又、国道58号より東地区は戦後嘉手納弾薬庫地区として軍用地に編入され中央部には戦前に整備された読谷補助飛行場があり戦後は軍用地として米軍のパラシュート降下訓練場として使用され各集落は、飛行場を取り囲む形で形成された。その為近隣市町村への交通アクセスは専ら国道58号を主体とした交通体系となっており県道6号線、国道58号比謝缸付近の交通混雑が慢性化しトリップ長の長い交通体系となっており国や沖縄県が提唱する東西幹線を結ぶ「ハシゴ構想」の隘路となっている。

現在、村内の返還軍用地の跡地利用の促進、東西軸の整備の一環として村道中央残波線の整備中であるが西海岸道路の一環としての国道58号嘉手納バイパス読谷道路については地方高規格道路の見直し等及び路線線形の見直し等で暫定形道路は整備されたものの本格実施については先行きが全く見えない交通行政となっている。

○ 課題

- ・ 国道58号から嘉手納弾薬庫を横断して沖縄市へ連結する道路整備
- ・ 西海岸道路（国道58号嘉手納バイパス読谷道路）の早期整備

今後の道路行政についての意見・提案

② ー 2 地域の目指すべき将来像

沖縄県読谷村

1. 十字環状道路を軸とする道路網づくり

国道58号バイパスは、飽和状態にある嘉手納ロータリーの交通をシフトすると共に村中央部を縦断して走る為、観光交通や通過交通に対して集客の吸引や交流機会拡大等の潜在的なポテンシャルを秘めている。又村道中央残波線は村中央部を東西に結ぶ本村の東西軸となる道路であり、南北軸である国道58号バイパスと合わせて十字道路として新たな背骨として位置づける。これらに加え国道58号、県道16号線、県道12号線は村の外郭を形成し、各集落を接続する環状道路として位置づける。本村では読谷補助飛行場の跡地利用の推進、村民センター地区をはじめとした都市機能の中心的地区として期待し、これらの機能を支援する為、十字環状道路を軸とした都市内幹線道路網づくりを図る。

2. 村内各地を連絡する利便性の高い道路網づくり

・読谷村では旧来までの集落である波平・楚辺地区から幹線道路沿いや南部の古堅地区において市街地の進展（人口集積）が見られている。又大木地区や国道東地区においても返還軍用地跡地利用計画において土地区画整理事業が予定されていることから、今後も軍用地返還の進捗にあわせて新たな市街地が展開していく可能性がある。その為、総合計画にある「自主自立」を支えるとともに地域活力の向上を図るべく村内各拠点を有機的に連絡する道路網づくりを図る。

3. 長期的な展望に立った道路網づくり

・今後のまちづくりにあたって、広域道路としての国道58号バイパスのみならず、広域医療施設、瀬名波通信施設をはじめとした軍用地の跡地利用による新たな都市化のポテンシャルが期待される。又一方で農村としての自然的土地利用の特性と調和を図ることも必要とされている。その為、長期的なまちづくりのビジョンの中で、それを支え、展開する道路網づくりを図る。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

沖縄県読谷村

1. 西海岸道路・嘉手納バイパス読谷道路

沖縄本島中南部の新たな骨格を形成する軸として位置づけされる路線であり国道58号に代わる物流及び観光支援道路としての展開が必要である。本村においても南北軸を形成し、都市間を連絡する路線として位置づけし国道58号西側を通る高規格幹線道路として又新たな南北軸として期待されている。

2. 沖縄～読谷道路の整備について （要望）

本村における主要道路網は、半島という地理的特性から南北軸として国道58号が縦断しているものの国道58号東側地区は戦後、嘉手納弾薬庫に編入されて近隣への移動は専ら国道58号を通過する交通体系となりトリップ長の長い交通体系となっていることから村道中央残波線から延伸した沖縄～読谷道路の整備を図ることにより広域連絡道としての円滑な交通体系に資する。

3. 村道中央残波線の早期整備について

村道中央残波線は、主要幹線道路へのアクセス道路であるほか、読谷補助飛行場跡地利用計画（返還軍用地跡地利用計画）の骨格をなす重要な路線で、周辺市街地における交通の円滑化を図ると共に西海岸リゾートへのアクセス支援を行い地域経済振興に寄与する。